

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	特定の近隣住人が多く、その付き合いの幅を広げられるよう取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	現在、老人会との交流を検討しており、交流が図れるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の暮らしに役立つような話し合い等の活動はないが、施設内に介護相談窓口を設置し独自の便りにて案内をしている。	○	老人会や地域の様々な研修に参加し、認知症ケアの啓発に努め地域貢献できるよう取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価について事業所内にて検討し、要改善点について改善チェックシートを作成、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーからの質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮しており、前回よりの取り組みについての状況と経過を報告してサービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上についてその都度、確認し支援をいただいている。また、「便り」作成時には担当者へ配布し、事業所の取り組み状況について報告し連携を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所内研修において成年後見制度と地域福祉権利擁護事業の講習にて全職員が学んでいる。現在必要性のある該当者はいないが今後必要な場合においての支援体制を整えている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についてマニュアルを作成し、全職員が閲覧できるようにしている。また事業所内研修を実施することにより全職員が虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には本人を交え、家族等に時間をとって丁寧に説明をしている。その際にケアに関する取り組みや、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明し、理解、納得を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情について検討し、迅速に対応できるよう苦情受付窓口を設置している。また、直接の苦情申し立てに配慮し、事業所内の玄関に目安箱を設置し、事業者が直接目を通してしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族へ写真つきの報告書を送付し、健康状態等について報告している。また家族来訪時にはその都度状況報告をしている。金銭管理については必要に応じ事前に確認し、報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頻繁な面会がない家族に対しては電話等で状態を報告すると共に意見、不満、苦情を聞きだせるよう取り組んでいる。また、苦情受け付け窓口を明確にし、事業所内玄関に目安箱(意見箱)を設置して運営に反映できるよう取り組んでいる。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回勉強会を行い、意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、議題に応じ職員へ個別や集団の面談にて対話している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は状況に応じた対応ができるようシフトに入れていないため、利用者の状態に応じた柔軟な勤務体制をとっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動の際には引継ぎ期間を設け利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に基づき、月1回の事業所内の研修を実施しており、学びの機会を確保している。また、事業所外で開催された研修においても受講職員より伝達講習ならびに資料の配布を行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に加入しており、毎月協会より配信される情報誌にて日々のサービスや職員育成に役立つ事例等を検討し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員の疲労やストレスの要因について気を配っている。また利用者や離れひと息つける場所を設置し、ストレスを軽減する為の環境づくりにも取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	週に1回の来訪があり、職員個々の努力や実績勤務状況について把握している。また労働安全衛生法に従って健康診断を実施し、職員の心身の健康を保つ為の配慮をしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に本人家族または、他施設より情報提供を求めており入居後の意向の相違がないようにご本人、家族の都合に応じて事業所の見学を勧めている。現在の状況、過去の生活歴からアセスメントを作成し、利用者が安心して受け入れられる体制をとっている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面談において、家族からの希望、ニーズを確認し、十分な話し合いを行い、初期の段階での信頼関係を築けるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の段階で相談、ニーズの把握に努めており、家族の面会の際には状況を報告し、同時に意向や希望の再確認をしケアの反映に取り組んでいる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学を勧めており、利用の際にはできるだけこれまで使用していたテレビや家具等にて自宅により近い形での環境づくりを心がけ、安心して生活できるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	『みんなでいっしょに支えあう』の理念の下、職員、利用者が共に学び、共感できる環境づくりに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族との情報交換を密にとっており、支援を求めている家族にはいつも耳を傾け、本人を共に支えあう関係を築けるよう取り組んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月の状態や状況を手紙にて報告し、本人の希望に応じ、ご自身で手紙を書いてもらい、ご家族との関係を大切にしている。また、来訪時にはご本人様とゆっくりできるよう、居室に案内したり配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望に応じ、外泊、外出を支援し、継続的な関係性が維持できるよう働きかけている。馴染みの友人、ご近所の方の面会も受付しており、双方の関係が途切れないよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の食事時・お茶の時には職員も一緒に輪に入り、会話を持って利用者が孤立せずに共に暮らしを楽しめるよう取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移られた方にも利用者と一緒に遊びに行ったりと関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を払い、日々の関わりの中で把握に努めている。また、意思の疎通が困難な利用者にも家族等より情報を得るよう取り組み実践している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人家族または、他施設より情報提供を求めており、現在の状況、過去の生活歴からアセスメントを作成し、利用者が安心して受け入れられる体制をとっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の暮らしのリズム(食事・排泄・睡眠等)の全体像を把握すると共に全職員ができる、できないの情報を共有把握し、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のモニタリングにてケアへの評価を実施し、また本人家族より、意向の希望を確認し、医師を含めた担当者会議にて介護計画を作成するよう取り組んでいる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体調不良による体調の悪化時やモニタリングによる状態変化時には介護計画の見直しを実施している。家族への事前の要望や意向を確認し作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成し、食事、水分量、排泄等の身体及び精神状態を記録し、全職員が状態を共有しており、個別記録とモニタリング評価にて介護計画の見直しに取り組んでいる。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう警察、教育機関、民生委員等、運営推進委員会にて意見交換する機会を設けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の希望に応じて地域の理容サービス(訪問)を利用している。地域の図書館を定期的に利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度が必要と思われる利用者に対し支援できるよう、資料を収集し担当窓口の把握にて、サービスがスムーズに提供できる体制をとっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関(かかりつけ医)による24時間対応の医療体制を提供し、状態に応じて医師より直接状況説明を行っている。また本人やご家族の希望に応じて他の医療機関の診察を受けられるような支援を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の週に1回の往診により状態の把握、また、随時の情報提供により、診察や治療を受けられるよう支援している。職員の介護相談等も必要に応じ医師より指示や助言を得ている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体医療機関による24時間の看護体制があり、密に連携が取れる体制が確保できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には情報提供を行い、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応指針を定め、事業所が対応し得るケアについて希望者については説明し同意を得ている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の意向、希望も踏まえ、利用者が安心して過ごせるよう取り組んでおり、急変時には医療機関とも密に連携を図り対応している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活の継続性が損なわれないよう、これまでの生活環境、支援内容、アセスメント、介護計画や注意点について情報を提供し連携を図っている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切に言葉かけや声のトーンに配慮し、又利用者のプライドを傷つけないよう目立たず、さりげない介助を心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が言葉では十分に意思表示できない場合にあっても、表情や全身での反応を注意深く見ながら、希望や好みを把握し支援するよう取り組んでいる。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なタイムスケジュールはもっているが本人が持っているペース、望んでいるペースに合わせた暮らしを支援するよう取り組んでおり、買い物、散歩、通院等一人ひとりの状態や思いに配慮した対応をしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の更衣、入浴の際の更衣等、自己決定がしにくい利用者にあっては、職員と一緒に考え支援している。また、本人の希望にて訪問理容の利用や理容店に出かける支援をしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に野菜を採ってきて調理、準備、配膳、片付けを共に行い、職員も同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう取り組んでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師の健康管理のもと、喫煙をされる利用者にはタバコの管理のもと、他の利用者に迷惑のかからない換気の良い場所にて喫煙できるよう配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の使用にて全職員が排泄が困難な方の排泄パターンを把握している。また、本人の自尊心を傷つけないようさりげない誘導、介助を心がけるよう配慮し取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	健康状態に問題なければ、毎日の入浴が可能な体制をとっている。入浴の希望者が重なる場合には職員立会いの下、利用時間について話し合い、公平に入浴の順番を決定していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動(生活リハビリ、散歩等)を促し生活リズムを整えるよう努めている。睡眠チェック表にて夜間の睡眠状態を把握し、不眠時等必要に応じて医師に報告、相談し対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理が得意、家庭菜園が得意、洗濯干しが得意等個々の得意分野を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事は頼み感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、楽器演奏が得意、カラオケが得意等個々の生活歴にあわせ楽しみごと、気晴らしの支援に努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な利用者には、希望にてお小遣いを所持してもらっている。買い物際には利用者が代金を支払えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や季節等利用者の体調を考慮し、希望者は毎日近隣への散歩へ出かけられるよう努めており、食料、日用品の買い物等も職員と共に外へ出かけるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事計画を立てており、戸外への外出支援をしているが、家族への協力依頼はできていない。	○	行事計画を基にご家族への参加を募り、共に外へ出かける機会づくりの取り組みを行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出すための支援をしたり、家族への状況報告書にて自筆のコメントを添えるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けておらず、いつでも来訪されるような来やすい雰囲気づくりに心がけており、いつも笑顔で利用者と一緒に迎えられるよう努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けており、全職員が参加し、おおむね3ヶ月に1回、身体拘束について検討している。全職員が身体拘束ゼロへの自覚を持ち取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の配置人数や時間、安全面を配慮した上で、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、全員の状態を把握するよう努めている。また、夜間は3時間おきに様子を確認し、必要に応じ随時の様子確認を行い24時間利用者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に合わせて厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用者が使用時に注意が必要なものに分け保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハット、報告書を記録し、職員の共通認識を図っている。万が一事故発生時には事故報告書を作成し、今後の予防対策について全職員が検討し、事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故対応マニュアルを整備し、事務所内にその手順を掲示しており周知徹底を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成しており、年2回の避難訓練をしている。地域の協力者を得られるよう運営推進会議においても働きかけている。	○	次回開催予定の避難訓練において、地域協力者への参加依頼を予定しており、地域での防災活動に取り組みたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人、家族の希望に応じ、起こり得るリスクについて、説明している。また、リスクを最小限に抑えられるような対策について話し合いを行い、介護計画に反映している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを実施し記載するとともに、顔色、食欲、様子に変化がある場合には医療機関に連絡し、即座の医療受診・往診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成しており、職員が内容を把握できるようにしている。また、本人の状態変化、処方内容、用量等の変化時には、母体医療機関との連携を図り、対応している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	医師、栄養士と相談し、乳製品や繊維質の多い食事の検討や日中の活動(生活リハビリ、散歩等)、水分摂取の管理にて、便秘の予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、個々の力に応じて職員が見守り、介助を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立にて個々に応じた摂取カロリーを医師の指示の下、設定し提供している。水分量も1日を通しチェックし、管理している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてマニュアルを作成しており、全職員が学習し、予防、対策に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材在庫表にて残りの食材を確認し、食材の鮮度の確保に努めている。また、台所や調理用具の衛生管理においては、消毒日の記載を明確にしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは花を植えたプランターを飾り、季節感を演出しており、ベンチを設置することで、近隣の方が立ち寄った際にも一息つけるようなスペースとなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼ホールとなっており、食器を洗う音や調理する風景(自らも調理に参加)を目にしたたり、触ったり、匂ったりし、五感を感じていただけるよう工夫し、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置しており、一人で過ごせる空間として利用したり、仲の良い利用者家族とくつろげるスペースとなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたテレビ、テーブル等を持ち込まれたり、馴染みの物(ぬいぐるみや置物)を持ち込まれ、本人が心地よく過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールは食後等一定の時間帯に換気しており、冷暖房は利用者の顔色や発汗等観察し状態に応じて調節している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子のまま使用できる洗面所や車椅子のまま利用可能なトイレがあり、トイレ、廊下、浴室に手すりを設置しており、利用者の安全確保かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の状態に合わせ、トイレや居室をわかりやすく明記し、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物に面した南側を利用し家庭菜園を行い、利用者と共に季節に応じた野菜を作ったり、採取した野菜を食し、楽しみながら活動できるよう取り組んでいる。今夏はヘチマカーテンを利用者家族の協力支援にて作り、共に楽しんだ。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は、高越山のみもとに位置しております。夏は吹き下ろす快適な風、地域を流れる川田川と、自然に富んだ環境に恵まれており、天候や季節に応じて外出（散歩）日課としており、地域の方との出会いを大切に、地域の方への理解と協力を得られるよう日々実践し取り組んでいます。また、母体医療機関が隣接しており、24時間対応可能な医療体制をとっております。個別の健康管理や生活指導等、かかりつけ医との連携を密に図り、安心した生活が送られるよう支援しています。同一敷地内には、ケアハウス・グループホームがあり、合同での行事参加にて、利用者・職員が共に学びあう関係を構築しています。地域密着サービスの主旨を理解、浸透できるよう地域の中で支えあい、助け合う関係となるよう、日々努力しております。